

バルタリ村



簡易保健所の建設が始まることを聞きつけ、多くの人が集まった。



ADRA Japan 支部長(左から2番目)やADRA 事業視察ツアーに参加した日本人も村を訪れた。



以前は、村落開発委員会の事務所の中で簡易保健所を運営していた。しかし、反政府組織によって破壊された。



新しい保健所は、その跡地に建てられることに。保健所としての独立した建物になるので、たとえ内紛が再発しても、攻撃対象にはならないので安心。



民家から部屋を借りて簡易保健所として運営。賃料は月750ルピー(2部屋)、150人分の診察料が消える。足りなくなった薬を買うことができない。



1部屋には、置き場がない薬の保管棚や書類棚、記録書類、机、ワクチン計画ボードなどが所狭しと保管されている。



書類や薬で簡易保健所として運営している一室は乱雑。ここでサービスを提供するほかないスタッフのストレスも高かった。



診察台は薬の箱などでいっぱい。横になって診療を受けることができない。二人の話も、外で待っている人に筒抜け。



雨が降るとタイヤが滑って上れない道。資材の運搬に苦労した。



資材が届くと、建設作業はあっという間に進んだ。



休憩中の建設作業員。後ろのサリー姿の女性は、この村の SHP in Charge (保健員) 着々と完成に近づく新しい簡易保健所を見て、にっこり。



住民がアイデアと労働力を分かち合い、使いやすい保健所に近づいていく。ここは、破壊された村役場跡に建設されたので、床が地面より高い。



薬や道具類を設置し、いよいよオープン



譲与セレモニーには、とても多くの人が集まった。
(写真に写っていない側には多くの男性の姿も)



埃にまみれていた診療台や乳児の体重計などが、
きれいに掃除され、活用されるようになった。



壁を有効活用して、高ビタミンの食品サンプルや、
村の健康相談ボランティアの紹介表を掲示



病気になったら保健所において～ ワクチン接種
やビタミン配布もしています と歌を歌う女の子
たち。伝統的なダンスも披露してくれた。



記念撮影（地域保健局、簡易保健所運営委員会、
簡易保健所スタッフ、健康相談ボランティア、建
設に参加した住民ボランティア、ADRA スタッフ）

コシデカ村



事業開始直後 2006 年 10 月時点のコシデカ村へ向かう道。車では横転の危険があり通行できない。



2007 年 6 月。1 日雨がふると、翌 2 日は通行できない。3 日連続して晴れる日を待って資材を運んだ。



簡易保健所は、2 部屋ある村落開発委員会の事務所の一室を利用していた。



乳児体重計、机、椅子、薬、注射器、書類、患者、スタッフ、汚物箱、ありとあらゆるものが 1 室に。



待ちわびていた簡易保健所の建設が現実となり、建設委員会の設置について、人々は興奮気味に話し合っていた。



ミーティングの様子を記録し、地域保健局に報告するコシデカ村の SHP in Charge。移住して 5 年、隣村からも頼りにされる有能で献身的な保健員。



建設地は、村落開発委員会事務所の裏手の空き地に決定した。斜面なので、土地をならすのは大変な作業だったが、住民らが助け合って整備した。



プロジェクト技術者からは注意をされていたのに、便利がいいからと土砂を事務所の裏手の空間に。安全のため、あとで掘り出すことになった。



資材が届かず、建設が一時ストップしたこともあった。



土を掘り出し、土砂が崩れないよう壁を設置した。これで、既存の事務所も、簡易保健所も安全。



完成した保健所。学校の休み時間になると、多くの生徒たちも頭痛、腹痛、歯痛、目の不快感などで保健所を受診。その時はまるで保健室のよう。



保健所で働くスタッフも、診察と、道具や薬を配置する十分なスペースを生かし、てきぱきと診察をするようになった。

プールバリ村



この建物 2 階の 2m 四方程度の 1 室が患者を診察する部屋として使われていた。狭い階段を上らねばならず、薄暗い。利用者は少なかった。



簡易保健所建設予定地。村のほぼ中心。写っているのは、ネパールのお祭りの時期に設置される”ピン”というブランコ。大人も子どもも遊ぶ。



建設に関する話し合いは、小学校の教室で行った。



作業中の様子。



完成した簡易保健所。



村の中を転々としていた頼りなかった保健所が、見違えるようになった。



ビタミン配布キャンペーンの準備をする保健所スタッフたち



譲与式典には多くの人が集まった。



式典で、地域保健局チーフは「鍵をかけても鍵が壊れては何にもならない。簡易保健所を守っていくのは、鍵ではなく、皆さんです」と挨拶。



左から、村人代表、ADRA Nepal 支部長、建設委員会リーダー、地域保健局、ADRA Japan スタッフ、SHP in Charge（保健員）

ダラネポカリ村



この建物の1階の1室を簡易保健所として賃借。開所は10時～14時だが、SHP in Charge（保健員）の不在が多く、閉まっていることが多かった。



運営していた簡易保健所の内部。細長い部屋で、埃っぽく、まるで倉庫のよう。ここが簡易保健所であることを知らない人も多かった。



村人が均した土地。村へ来るバスが通る道で、学校も近い。



ADRA アジア地域事務所の理事会メンバーも視察に訪れた。



人材育成事業で、この村に 5 人の日本人を派遣。現場を視察した書記官の嶋田さんと村のリーダーであるインドラさんとヒマラヤ山脈を後ろに。



ボランティアの意味を考えながら、作業にも積極的に参加した。



カトマンズの学校に通っていたため不在がちだった SHP in Charge (保健員)。完成と同時にコースも終了し、これからの活動に意欲的な様子。



譲与式はあいにくの雨だったが、多くの人が集まった。

ラヤレ村



腹痛、避妊、目の感染症、小児の風邪、すべての患者を同じ部屋で処置するストレスを感じている保健所スタッフ（左）



簡易保健所として利用されていたコミュニティ・リソース・センター。女性らは新しい保健所ができ、文化活動を再開できるのでうれしいと語る。



基礎工事をしていると、スコップを持った村人が手伝いにやってきた。



雨で道が悪くなる前に運搬された資材。



完成した簡易保健所。手前には花壇が作られている。



屋根材には、さび止めコーティング（黒色の塗料）を施した（全地域共通）

マヘンドラジョティ村



村落開発委員会の事務所内で、保健所のサービスを行っていた。しかし、反政府軍の活動で破壊された。



簡易保健所の建設を歓迎する村人。ピンク色のサリーは、村の健康相談ボランティア。



簡易保健所建設候補地を視察。住民の間で意見が割れ決定まで、時間がかかった。



場所がないので、民家の屋上で健康教育トレーニングが行われていた。



完成間近



塗装中の内部



開所した保健所内。よく整頓されている。



歩きにくかった建物の周りに犬走りを造った。

パトレケット村



賃借している一室をトタンで分けて 2 部屋にしていた。



奥の部屋は、妊産婦の診察用。



簡易保健所建設予定地へは、歩きやすい道はなかった。



建設に先立ち、村人が道路を建設。資材の運搬も車両が通れるようになり、順調だった。



完成後。部屋の移動には外へ出なければならず、利用者は雨などにぬれ、苦情が寄せられていた。



コミュニティと話しあい、前部分に、屋根を追加設置した。以前にくらべ利用者数は2倍になった。

クシャデビ村



保健所は、家畜診療所内にあった。



薬や書類が所狭しと置かれていた。



新しくなった簡易保健所内。よく整頓されている。



村の中心にあり、利用に便利。



赤ん坊を連れての受診。座って順番を待つことができるようになり、利用しやすくなったと語る。



事業の外部監査も各地の簡易保健所を訪問した。

ブロック類の製造



壁用ブロックを干しているところ



壁用ブロックの製造。セメントを少しずつハンマーで叩きながらモールド(型)に押し込んでいく。黙々と作業を続ける女性らの姿が印象的。



完成したブロックの質を確かめる現場監督、プロジェクト・マネージャー、プロジェクト技術者(左から)



柱用ブロックを製造するためのモールド



トイレのタンク用のリング



トイレタンクの蓋を製造しているところ



梁を製造している様子。



梁、まぐさの中には鉄筋をいれて、コンクリートで固める。